

# KYODO PR Business Report

---

第53期（平成28年12月期）中間事業報告書

---



【経営理念】

我々は情熱と創造性で  
顧客の課題解決を図り  
100年のコミュニケーションをつなぐ  
PRエージェンシーである。

【ビジョン】

No.1 PR



平成28年4月1日よりコーポレートロゴマークが変更になりました。  
このコーポレートロゴマークは、創業から変わらない遺伝子である「虫の目、鳥の目、魚の目」という3つの目と、メディア・企業・社会をつなぐ100年コミュニケーションを、どこまでもつながる輪をモチーフに表現しています。



代表取締役社長

谷 鉄也

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。当社グループの第53期(平成28年12月期)上半期連結業績の概況をご報告申し上げます。

共同ピーアール株式会社につきましては、前期に引き続き新規リテイナー契約数の伸張及び代理店との協業強化の結果、前期の予想を上回り、売上高1,731百万円(当初予想1,696百万円)、営業利益40百万円(当初予想33百万円)、経常利益32百万円(当初予想31百万円)、当期純利益41百万円(当初予想31百万円)となりました。売上高につきましては、新規リテイナー契約数の回復による好調もあり、予想比増となりました。利益面につきましては、主に固定費の見直しによる販売費及び一般管理費の圧縮等により、予想を上回る結果となりました。

一方、連結子会社である共和ピー・アール株式会社については、前期に引き続き、既存のリテイナー顧客からの安定した収益に加えて、オプション&スポット案件の受注数が増加したことにより売上高は増加いたしました。同じく、映画のPRに特化した連結子会社である株式会社マンハッタンピープルにつきましても、業界における確固たる地位と提供するサービスに対する信頼から、高い興行収入が期待される大型作品を継続的に受注しております。当第2四半期連結累計期間におきましては宣伝プロデューサー業務案件の受注を再開したため、売上高は前期比増となりました。

以上より、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,973百万円(前年同期比10.6%増)、営業利益60百万円(前年同期比51.6%増)、経常利益61百万円(前年同期比62.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益54百万円(前年同期比190.3%増)となりました。

通期の業績見通しにつきましては、引き続き利益率の高いリテイナー顧客の維持と新規獲得を図ることにより収益基盤の安定化に努めるとともに、広告会社や地方自治体への営業強化に取り組み、平成28年12月期通期連結業績予想は、売上高3,843百万円、営業利益141百万円、経常利益136百万円、親会社株主に帰属する当期純利益122百万円を目指します。前期に作成した中期ビジョン「No.1 PR」を実現し、目標とする業績を達成するため、社員一丸となって全力を尽くしてまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



## コミュニケーションこそがPRの礎。 クライアントの熱い想いを伝えるPRのプロフェッショナルたち。

干場 麻子 (PRアカウント本部 第二業務局)

PRの仕事をしていると、時代の変化や情報のスピードがますます加速していることを強く感じます。そんなスピード社会のなかでも「コミュニケーションの本質」はいつの時代も変わらないのではないかと同時に考えさせられます。コミュニケーションを通して、新製品やサービス、技術などクライアントが手塩にかけて育てた“ニュースの種”を世に送り出すのが私たちPRパーソンの役目です。熱い想いとともにも託されたその種が芽を出し花開いたとき、すなわちメディアに取り上げられニュースになったときが、私たちにとって最も嬉しい瞬間です。当社では個性豊かな人財が切磋琢磨しながら、今日もクライアントのために奔走しています。これからもPRの礎である「コミュニケーション」を大切にしながら社員一同邁進していきたいと思えます。

---



## Think global, act local 舞台はグローバルへ。 PR戦略もグローバルスタンダードに。

山本 雅也 (PRアカウント本部 第一業務局)

私たちのグローバルビジネスにおけるミッションは2つあります。1つは日本市場のPRプロフェッショナル集団として、海外企業のグローバル戦略を後押しすることです。もう1つは、加速する日本企業の海外事業展開をPRの観点からサポートするパートナーとしてのミッションです。もちろん、PRの舞台は「世界」です。外資系企業のグローバル戦略に比べ、日本企業のそれはまだまだ発展途上と言え、私たちも研究に研究を重ねる日々を送っております。外資系企業のグローバルPR戦略の一部として、長年その役割を果たしてきた当社の実績は、昨今海外で奮闘する日本企業の皆様の海外戦略に大きく役立つ貴重かつ特有の資産となりつつあります。当社では、激変のグローバルビジネスにおける経営課題と向き合えることを最大のチャンスととらえ、時代のニーズに応えお客様とともに成長できるようにチャレンジを続けてまいります。

## 白夜の滑走路でファッションショー

フィンエアーとヘルシンキ空港の共同プロジェクトが5月に開催され、白夜の北欧でファッションショーが開催されました。当社は開催日前後に合わせてプレスツアーを実施、ツアーの各種調整や現地アテンドのサポートを行いました。アジアと欧州のフィンエアー就航地の中から7か国、7人の新進デザイナーを招聘し、ジェット機をバックステージとして滑走路をランウェイに見立てるといった前代未聞のPRイベント。フィンエアーは日本人にも人気の北欧ブランド「マリメッコ」と機内食の食器やアメニティ等でコラボレーションしていることから、日本のメディアからも注目度が高く、大きな露出を獲得しました。



## 都市フォントでクラウドファンディング

横浜のまちの魅力や個性をデザインに取り入れた都市フォント「濱明朝」の制作活動が2009年から始動しています。7年目となる今年、地元企業を巻き込んだクラウドファンディングによる資金集めが行われました。フォントという難しいPR素材ですが、ローカルメディアや専門メディアの攻略及びソーシャル拡大などの活動により目標額を達成し、日本で初めてとなる書体のクラウドファンディングを成功させました。デザイナーから市民まで幅広い支援を獲得し、濱明朝フォントの認知拡大にも繋がりました。



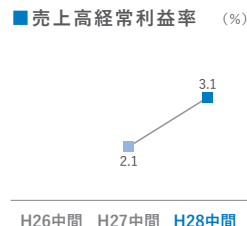
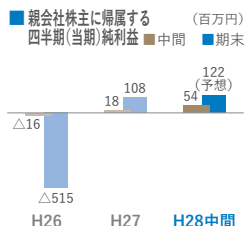
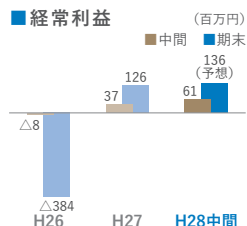
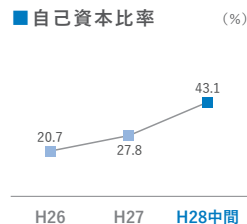
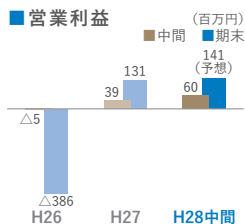
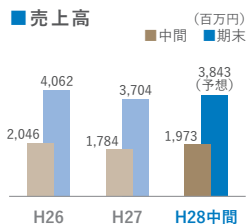
## 洋画の興行収入ランキングを独占！

### マンハッタンピープルが存在感を示す！

当社の100%連結子会社である株式会社マンハッタンピープルが、上半期のNO.1となった「ズートピア」や「バットマンvsスーパーマン」など洋画ヒット作品を送り出すことに成功しました。邦画では松竹の大ヒット作品となりました「植物図鑑」を担当。更には吉本興業が初めて洋画を輸入配給した「マクベス」を配給宣伝一式で受注するなど、同社の新規戦略に貢献するチャレンジングな上半期となりました。



# Financial Highlight | 決算ハイライト |

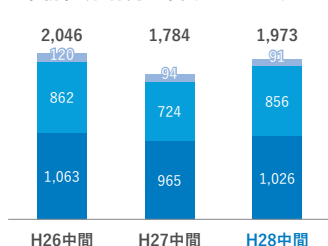


H26中間 H27中間 H28中間

※H26中間につきましては経常利益がマイナスのため非表示となっております (百万円)

科目	当第2四半期 平成28年1月1日～6月30日	構成比	前第2四半期 平成27年1月1日～6月30日	構成比	増減率
売上高	1,973	100.0%	1,784	100.0%	110.6%
売上総利益	1,148	58.2%	1,143	64.1%	100.4%
販売・一般管理費	1,088	55.1%	1,103	61.9%	98.6%
うち、人件費	888	45.0%	880	49.4%	100.9%
営業利益	60	-	39	-	151.6%
経常利益	61	-	37	-	162.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	54	-	18	-	290.3%
売上高経常利益率	3.1%	-	2.1%	-	-
自己資本比率	43.1%	-	26.0%	-	-
連結・EPS	44.62円	-	15.37円	-	-
一株当たり配当金	0.00円	-	0.00円	-	-

■ 業務区別売上高 (単位: 百万円)



リテイナー …………… 企業などの広報活動を6ヶ月以上の契約をもって支援及びコンサルティングしていくものであります。PR戦略の策定からパブリシティ(記事化)業務、不祥事発生時の危機管理広報対応支援など幅広いサービスを行っております。

オプショナル …………… リテイナー契約顧客に対する一時的な付加サービスを言います。

スポット …………… 企業などの6ヶ月未満の広報活動支援を言います。ニュースリリースの作成・配信などのパブリシティ活動から、展示会や美術展等の開催告知目的のPR活動、記者発表会の企画・運営等まで各種のニーズに対応します。

ベイドパブリシティ …… 新聞や雑誌等の特定のページを購入して、顧客の意図する内容を記事形式で掲載していく手法を言います。

# Consolidated Financial Statements | 連結財務諸表 |

## ■ 連結貸借対照表(要旨)

科目		当第2 四半期末	前期末
資産の部	流動資産	1,231	1,921
	固定資産	334	325
	資産合計	1,566	2,246
負債の部	流動負債	672	1,458
	固定負債	220	163
	負債合計	892	1,621
純資産の部	資本金	419	419
	資本剰余金	360	360
	利益剰余金	△111	△166
	自己株式	△16	△16
	株主資本合計	652	598
	その他有価証券評価差額金	5	10
	退職給付に係る調整累計額	16	15
	その他の包括利益累計額合計	21	26
	純資産合計	674	624
	負債純資産合計	1,566	2,246

※当第2四半期末:平成28年6月30日現在 (単位:百万円)  
※前期末:平成27年12月31日現在

## ■ 連結損益計算書(要旨)

科目	当第2四半期 累計	前第2四半期 累計
売上高	1,973	1,784
売上原価	825	640
売上総利益	1,148	1,143
販売費及び一般管理費	1,088	1,103
営業利益	60	39
営業外収益	10	2
営業外費用	9	4
経常利益	61	37
特別利益	-	5
税金等調整前四半期純利益	61	43
法人税等	6	24
親会社株主に帰属する四半期純利益	54	18

※当第2四半期累計:平成28年1月1日～6月30日 (単位:百万円)  
※前第2四半期累計:平成27年1月1日～6月30日

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科目	当第2四半期 累計	前第2四半期 累計
営業活動による キャッシュ・フロー	37	△191
投資活動による キャッシュ・フロー	△13	△32
財務活動による キャッシュ・フロー	41	△109
現金及び現金同等物の 四半期末残高	470	476

※当第2四半期累計:平成28年1月1日～6月30日 (単位:百万円)  
※前第2四半期累計:平成27年1月1日～6月30日

## Company Profile | 会社情報 |

### ■ 取締役及び監査役 (平成28年6月30日現在)

取締役会長	古賀 尚文
代表取締役社長	谷 鉄也
取締役副社長	沼田 英之
専務取締役	西井 雅人
取締役	木村 忠久
社外取締役	平 英毅
常勤(社外)監査役	行本 憲治
監査役	越智 大藏
社外監査役	佐伯 一郎

※1.社外取締役である平英毅氏及び社外監査役である行本憲治氏は、株式会社東京証券取引所の規定する独立役員であります。  
※2.監査役のうち、行本憲治氏及び佐伯一郎氏は社外監査役であります。

### ■ 大株主 (平成28年6月30日現在)

株主名	持株数	持株 比率
(株)新東通信	381,600株	31.03%
(株)テクノロジーグローバル研究所	200,000株	16.26%
SMBC日興証券(株)	63,100株	5.13%
佐藤 友亮	55,800株	4.54%
共Pグループ従業員持株会	44,200株	3.59%
惟野 育太	34,000株	2.76%
山本 文彦	27,500株	2.24%
高長 樹	26,100株	2.12%
上村 颯	22,400株	1.82%
百溪 直司	21,000株	1.71%

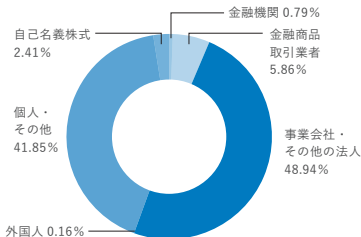
注)持株比率は自己株式(30,317株)を控除して計算しております。  
また、自己株式につきましては、上記の表から除外しております。

### ■ 株式状況 (平成28年6月30日現在)

発行可能株式総数	5,040,000株
発行済株式の総数	1,260,000株
株主数	705名

### ■ 所有者別株式分布状況

(平成28年6月30日現在)



社名 共同ピーアール株式会社(証券コード:2436)  
KYODO PUBLIC RELATIONS CO., LTD.  
所在地 〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル  
電話:03-3571-5171(代) FAX:03-3574-1005  
創業 1964年(昭和39年)11月  
資本金 4億1,990万円  
社員数 195名(単体)、228名(連結)  
(平成28年6月30日現在)